4　理科

学校番号	303

平成３１年度　理科

教科	理科	科目	生物基礎	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	生物基礎　改訂版　（啓林館）						
副教材等	ニューステージ　新生物図表　（浜島書店）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

学習の注意点

・教科書など、必要なものは全て準備しておく　　・私語など、他の生徒の邪魔になる行動はしない

・グループで活動する時は、分からなければお互いに協力して取り組む

評価

・定期考査７０点、平常点（提出物・授業態度）３０点、合計１００点満点

2　学習の到達目標

・生物の多様性を踏まえつつ、生物に共通する概念や原理を理解する。

・代謝、遺伝、体内環境の維持など、生命現象のしくみについて理解を深める。

・実験、観察を通して、筋道の通った思考の方法を身につける。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:観察・実験の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	数々の生命現象に対して、興味・関心を持っている。 グループ活動や実験・観察などに対して主体的に取り組んでいる。	生命に関する諸現象を通じて、その共通性や多様性について理解を深め、まとめることができたか。	それぞれの操作を正しく行い、身につけることができたか。 実験、観察において、得られたデータを正しく扱い、まとめることができたか。	生命に関係する諸現象について、区別と説明ができる。
評価方法	学習状況の観察 授業や実験プリントの提出内容 グループ発表等の態度	学習状況の観察 授業や実験プリントの提出内容 グループ発表等の態度 定期考査の結果	学習状況の観察 授業や実験プリントの提出内容 定期考査の結果	学習状況の観察 授業や実験プリントの提出内容 グループ発表等の態度 定期考査の結果

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。

学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	生物の特徴	生物の多様性と共通性	○	○	○	○	a:生命に共通の構造や反応について関心をもつ。 b:細胞小器官がどのような起源をもち、どのような役割を担っているか説明できる。 c:顕微鏡を用いて細胞分裂の様子を観察し、記録することができる。 d:細胞の基本構造や呼吸・光合成の反応について理解している。	学習状況 授業プリント 探究活動 観察・実験 定期考査
		生命活動とエネルギー	○	○		○		
	遺伝子とそのはたらき	生物と遺伝子	○		○	○	a:遺伝現象に関心を示し，積極的に理解しようとする。 b:DNA の塩基配列からアミノ酸の配列への返還や、タンパク質合成の過程について説明できる。 c:身近な材料を用いて DNA を抽出できる。 d:細胞分裂の過程や細胞周期、核酸とアミノ酸等の物質について理解している。	学習状況 授業プリント 探究活動 観察・実験 定期考査
2学期		遺伝情報の分配	○			○		
		遺伝情報とタンパク質の合成	○	○		○		
	生物の体内環境の維持	体内環境	○				a:体内環境の維持に関心をもち，理解しようとする。 b:ホルモンや自律神経を用いた体内環境の調節、および免疫のしくみについて説明できる。 d:自律神経・ホルモン・白血球や免疫について理解している。	学習状況 授業プリント 探究活動 観察・実験 定期考査
		体内環境を維持するしくみ	○	○		○		
3学期		免疫	○	○		○		
	生物の多様性と生態	植生の多様性と遷移	○	○		○	a:生命の多様性に関心をもち，理解しようとする。 b:植生の多様性や食物連鎖について説明できる。 d:植生や生態系について理解している。	学習状況 授業プリント 探究活動 観察・実験 定期考査
		バイオームとその分布	○					
		生態系とその保全	○	○				

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:思考・判断・表現
c:観察・実験の技能 d:知識・理解

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。